

齊藤茂吉全集

第四卷

(第四回配本)

昭和二十七年八月十日 第一刷發行

齋藤茂吉全集 第四卷

定價四百二十圓

著者 齋藤茂吉

發行者 東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地 岩波雄二郎

印刷者 東京都青槐市根ヶ布三八五番地 山田一雄



發行所

東京都千代田區
神田一ツ橋二丁目三番地
株式會社

岩波書店

落丁本・亂丁本はお取替いたします

株式會社大化堂印刷・製本

目次

白桃

昭和八年

新春賦	三
新年	四
朝の海	四
早春獨吟	六
殘雪	七
長塚節忌歌會	八
事々	八
殘雁行	九
山房獨語の歌	一〇

嚴し	二
山房近咏	二三
赤彦歌會	二三
番場蓮華寺	二四
比叡山	二五
沙羅雙樹	二七
鞍馬山	二八
京都・大阪	三〇
五日市濱	三一
嚴島	三三
伊香保其一	三三
伊香保其二	三四
伊香保其三	三四
鹿野山	三七
墓參	三〇
清澄山	三〇

蕨	三
左千夫忌	三
中宮寺	三
牡丹花	三
栗の花	三
時々感想斷片集	三
芥川氏七回忌	三
谷汲	三
長良川	三
第八回アラギ安居會	三
比叡山上の歌	四
幻住庵址	四
比叡・坂本・大津・石山等	四
嵯峨澤	五
白桃	五
輕井澤より碓氷	五

草津小吟 五五

川原湯温泉 五六

四萬 五八

朝寒 六〇

山莊 六一

五湖 六二

高山國吟行 六四

横手 八二

歲晚 八三

雜歌控 八四

昭和九年

上ノ山滞在吟 九一

續上ノ山滞在吟 九三

谿 九八

歸途 一〇〇

寂	101
折に觸れたる	101
内苑	105
三月八日	105
餅	106
上ノ山	107
庭前卽事	109
平福百穂畫伯追悼歌會	110
島木赤彦忌歌會	110
百穂畫伯挽歌	110
追悼百穂畫伯	111
悲歎錄	113
鶯のこゑ	113
悼東郷元帥	114
青野	115
東郷元帥	116

藏王山上歌碑	二六
この日ごろ	二七
大峰参拜	二八
東熊野街道	二〇
紀州木本海岸	三二
瀬・本宮・湯の峯	三二
湯崎白濱	三三
濱原	三四
濱田より下府	三四
有福より濱原	三六
三朝	三七
新秋雑歌	三八
夏季歌會	三〇
野分	三二
中村憲吉君を憶ふ	三三
百花園	三三

小吟	一三四
日光小吟	一三五
秩父吟行	一三七
獨吟抄	一三九
熱海	一四〇
十二月	一四一
冬ふかむ	一四二
寒月	一四五
歲晚近作	一四六
歲晚	一四七
雜歌一束	一四八
後記	一五三

曉紅

昭和十年

新春小歌	一五九
岡の冬草	一六〇
春光	一六一
餅	一六二
みちのく山	一六三
たちから	一六四
御題池邊鶴	一六四
池邊鶴	一六五
新草	一六六
一日	一六七
平野	一六七
銚子附近	一七〇
漁村	一七一
川口	一七三
國技館	一七四
夕かぎろひ	一七五

春雲	一七七
山房私歌	一七八
踰矩の歌	一八〇
吉野山	一八二
高層	一八三
吉野山	一八三
胡顔子を愛する歌	一八四
左千夫先生二十三回忌	一八五
山中	一八六
強羅漫吟其一	一八六
強羅漫吟其二	一八九
晩夏一日	一九三
漫吟	一九四
山中小吟	一九四
歌會の歌	一九五
秋日	一九六

九月十九日	一九七
新冬小吟	一九七
大和路	一九九
伊香保	一九九
秋冬雑歌	二〇一
ガード下	二〇二
憶寺田博士	二〇三
晩秋より歳晩	二〇三
雑歌控	二〇六

昭和十一年

新春の歌	二二三
海雲	二二四
新春	二二四
新年紙上	二二五
木の實	二二六

紅梅	二七
ゆづり葉	二八
路地	二九
二月十八日	三〇
木のもと	三〇
雪	三一
残雪	三一
三月	三二
樂	三二
檜の葉	三三
東海寺塋域	三四
一つ螢	三五
現身	三六
自題	三六
青谿	三七
山上小吟	三九

たかがや	二四〇
左千夫忌	二四一
夜雷	二四二
明神嶽	二四三
散步	二四五
滞在雑歌	二四六
堂ヶ島	二四〇
月	二四一
一日	二四二
夜雷	二四三
殘居	二四五
歸京	二四六
映畫中	二四六
庭	二四六
遠雲	二四七
子規忌	二四八

新秋雜歌	二四八
月	二五二
新秋	二五三
嵐の前	二五三
野火	二五四
妙蓮寺	二五五
雜歌	二五八
木曾福島	二五八
上松發	二六〇
鞍馬	二六二
王瀧	二六四
王瀧發	二六五
氷ヶ瀬	二六七
瀧越途上	二六八
瀧越	二七〇
三浦伐木所	二七一

した谿	二七二
歸路	二七四
寢覺の床	二七五
大平峠	二七六
飯田	二七八
瀧温泉より巖温泉	二七九
朝	二八二
白骨途上	二八四
白骨温泉其一	二八五
白骨温泉其二	二八七
白骨温泉其三	二八九
初冬	二九〇
十月二十四日	二九一
庭前初冬	二九一
冬の雨	二九二
歳晚小歌	二九三